

登山月報



シンガー山塊



IFSC クライミング世界選手権 2019 八王子報告	2
第130回 Mountain World	7
新連載 『日山協と私』	8
2019年度山岳レスキュー講習会(無雪期・西部地区) 報告	9
第63回全国高等学校登山大会	11
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	12

世界選手権、今からおよそ2年前に日本開催の話が持ち上がり検討が始まった。当初、中国開催の予定であったが、オリンピックを控え2018年のIFSC総会で日本開催が決まる。今から日本での開催が可能なのか、時期、会場、施設、スタッフ、予算など多くの課題がのしかかるが“何とかなる”という想いでスタートする。

会場選定は、代々木、埼玉アリーナ、調布の森…と接触をするが、すでに行事が入っておりさらに準備を含めた開催期間が約4週間必要なため受け入れて頂けるところはなかった。最後は、会場のスケールから開催は厳しいと考えていたエスフォルタアリーナ八王子にアプローチ。八王子市のバックアップを頂き会場確保にこぎつけた。

時期に関しては、ワールドカップ終了後の10月下旬から11月を考えていたが、IFとの検討でオリンピックのテストイベントを兼ねる(コンバインドのみ)などいろいろな事情がからみ8月11日～21日の開催となる。但し、準備を含め21日間で会場を借りられる期間で、かなりの短縮となり、会場準備、ルートセット、撤収に負荷をかけることになる。(最終的にはテストイベントは2020年3月になった。)そのような状況下、2019年3月開催のIFSC総会で(東京)はパラクライミングの同時開催は難しいとの判断により別開催が決まり関係者に混乱と支障をきたすことになる。

一方、大会の安全面で競技壁下の床補強を行う予定であるがオリンピックを控えての繁忙期、業者選定は7月上旬までずれ込む。予算を含め大会直前まで多くの課題を抱えながら8月11日を迎えた。

1. 概要

- ①. 大会名：IFSC CLIMBING WORLD CHAMPIONSHIP HACHIOJI 2019 (IFSC クライミング世界選手権 2019 八王子)
- ②. 会場：エスフォルタアリーナ八王子
- ③. 期間：2019年8月11日(日)～21日(水)
- ④. スケジュール／種目：
 - 8月11日 Bouldering 予選(女子)
 - 8月12日 Bouldering 予選(男子)
 - 8月13日 Bouldering 準決勝・決勝(女子／男子)
 - 8月14日 Lead 予選(女子・男子)
 - 8月15日 Lead 準決勝・決勝(女子／男子)
 - 8月16日 休日
 - 8月17日 Speed 予選・決勝(女子／男子)

- 8月18日 Combined 予選(女子)
- 8月19日 Combined 予選(男子)
- 8月20日 Combined 決勝(女子)
- 8月21日 Combined 決勝(男子)

⑤. 参加国と地域：39

アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、チリ、中国、チェコ、エクアドル、スペイン、フランス、イギリス、ドイツ、香港、インド、イラン、イスラエル、イタリア、カザフスタン、韓国、メキシコ、オランダ、ノルウェー、ニュージーランド、パキスタン、ポーランド、南アフリカ共和国、ロシア、スロベニア、スイス、スウェーデン、スロバキア、タイ、台湾、ウクライナ、アメリカ、ウズベキスタン、日本

⑥参加選手 606人(種目重複含む)

- Bouldering 女子89人 男子104人
- Lead 女子92人 男子99人
- Speed 女子83人 男子99人
- Combined 女子20人 男子20人
284人 322人

2. Bouldering

ボルダリング予選は、サブアリーナで実施。11日は女子予選。予選はチケットの売れ行きが思わしくなかったが、開場前にお客が40人ほど並ばれており、いよいよ始まるという気持ちでいっぱいになる。Janja GARNBRET、野口啓代が5課題完登の1位通過。日本人は6人中4人が予選通過。男子の予選は翌日12日。緒方良行とAdam ONDRAが1位通過。そして、日本人男子7人全員が予選を通過し順調な滑り出し。準決勝、決勝は13日メイン会場に移る。予選と違って、準決勝の課題は、男女ともに厳しく女子はゼロ完が続出。男子は予選1位の緒方が敗退する。

WOMEN Bouldering

Rank	NAME	Nation	Final	Semi Final	1 Qualification	2 Qualification
1	Janja GARNBRET	SLO	3T3z 88	3T4z 78	5T5z 55	
2	Akiyo NOGUCHI	JPN	2T2z 42	2T4z 38		5T5z 99
3	Shauna COXSEY	GBR	2T2z 66	0T3z 06	3T5z 69	
4	Levgeniia KAZBEKOVA	UKR	1T2z 34	1T2z 23	4T5z 1414	
5	Miho NONAKA	JPN	1T2z 56	0T3z 05		3T4z 48
6	Nanako KURA	JPN	0T1z 01	1T2z15	5T5z 1210	

決勝では、女子はJanja GARNBRETが3完登で優勝。迷いのないムーブというか、起こしたムーブは無理な体勢になっても登り切ってしまう完璧な強さに敵なし。そして野口、Shauna COXSEYが2完登で2位、3位と続く。第4課題が進む中、他選手の完登が出始めると野口は4位まで落ちる。そして野口の番。落ち着い



た感じで課題の前に立ち、なんなく1撃で完登する。アテンプトの差で2位となる。野口のパフォーマンスには静と

動があり見ているものを感動させる何かがある。会場は、一気に盛り上がる。

MEN Bouldering

Rank	NAME	Nation	Final	Semi Final	1 Qualification	2 Qualification
1	Tomoa NARASAKI	JPN	2T4z 1220	2T4z 24	4T4z 85	
2	Jakob SCHUBERT	AUT	0T3z 010	1T4z 312	3T4z 56	
3	Yannick FLOHÉ	GER	0T3z 013	2T4z 1316	3T5z 514	
4	Kokoro FUJII	JPN	0T3z 018	2T4z 56		4T4z 55
5	Keita DOHI	JPN	0T2z 09	2T4z 510		3T5z 68
6	Adam ONDRA	CZE	0T0z 00	3T4z 117	5T5z 66	



男子決勝は、かなり厳しい課題で予選、準決勝と1位で通過してきたAdam ONDRAをはじめゼロ完登が続出。そのような状況下、唯一榎崎が2完登で優勝もぎ取る。

3. Lead



14日予選、15日に準決勝、決勝を行う。女子は、Janja GARNBRETがボルダリングに続いて優勝。もともとLeadが得意だけあって決勝でも完登ではないが、他を寄せ付けられない登りであった。

日本人では森秋彩が3位、野口啓代が5位に入る。残念なのは、森が中盤のトラバースでムーブをミスし、やり直したことが持久面に影響したのでは？これがなければJanjaに迫れたのではと思えるほど森の登りは素晴らしかった。

男子では、ボルダリングでもう一步だったAdam ONDRAが復調し優勝。日本人では榎崎が4位、原田が7位となる。

WOMEN Lead

Rank	NAME	Nation	Final	Semi Final	1 Qualification	2 Qualification
1	Janja GARNBRET	SLO	43+	38+	Top	Top
2	Mia KRAMPL	SLO	39+	34	35+	32
3	Ai MORI	JPN	38+	34+	39+	Top
4	Chaehyun SEO	KOR	38+	32	34	38
5	Akiyo NOGUCHI	JPN	38+	32	34	33
6	Jessica PILZ	AUT	35+	30+	37	31
7	Vita LUKAN	SLO	30+	35	28	31
8	Julia CHANOURDIE	FRA	30+	30+	31	31

MEN Lead

Rank	NAME	Nation	Final	Semi Final	1 Qualification	2 Qualification
1	Adam ONDRA	CZE	34+	37+	Top	31
2	Alexander MEGOS	GER	33+	40+	Top	32
3	Jakob SCHUBERT	AUT	33+	30+	Top	Top
4	Tomoa NARASAKI	JPN	30	38	Top	Top

5	Sean MCCOLL	CAN	30	37+	31+	Top
6	Stefano GHISOLFI	ITA	29+	29+	28+	Top
7	Kai HARADA	JPN	28+	31+	32+	Top
8	Hannes PUMAN	SWE	27+	29+	29+	32+

4. Speed

8月16日は休日、17日にスピード競技を開催。

予選通過には、女子で8秒前半、男子は6秒前半が必須。ただ、榎崎、藤井など6秒台を出したが予選通過にならなかった。予選から5秒代の時代に入ってきたと感じる。残念なのは、日本トップの野中生萌が肩の故障で9秒台に終わったこと。

さて、決勝はトーナメント(16名)で争われる。1/8ファイナルで8名に、1/4ファイナルで4名、1/2ファイナルで2名、ビッグファイナルで優勝者が決まる。

WOMEN Speed

Rank	NAME	Nation	BigFinal	Small final	1/2Final	1/4Final	1_8Final	Qualification
1	Aleksandra MIROSLAW	POL	7.129		7.337	7.337	7.472	7.377
2	Di NIU	CHN	8.363		7.525	7.814	7.871	8.026
3	Anouck JAUBERT	FRA		7.534	7.535	7.663	8.409	7.454
4	YiLing SONG	CHN		9.768	fall	7.192	7.436	7.698
5	Aleksandra KALUCKA	POL				7.605	7.789	8.227
6	Mariia KRASAVINA	RUS				7.998	7.454	7.414
7	Patrycja CHUDZIAK	POL				8.008	8.114	7.946
8	Elizaveta IVANOVA	RUS				10.19	7.747	7.806

MEN Speed

Rank	NAME	Nation	BigFinal	Small final	1/2Final	1/4Final	1_8Final	Qualification
1	Ludovico FOSSALI	ITA	6.871		Wildcard	Wildcard	5.908	5.97
2	Jan KRIZ	CZE	fall		5.986	6.219	6.136	6.03
3	Stanislav KOKORIN	RUS		5.835	fall	5.808	5.944	6.088
4	Danyil BOLDYREV	UKR		5.934	false start	7.5	5.94	5.889
5	Kostiantyn PAVLENKO	UKR				5.863	6.232	5.966
6	Reza ALIPOURSHENAZANDIFAR	IRI				7.248	6.281	5.757
7	Rishat KHAIBULLIN	KAZ				7.613	7.013	6.051
8	QiXin ZHONG	CHN				false start	5.58	6.086

決勝では、男女ともに波乱が起きた。女子では、世界記録(7.10)保持者の宋懿齡(Yiling Song)がセミファイナルでスリップし9秒台で4位に終わる。予選から7秒前半を安定してマークしているAleksandra MIROSLAWFが決勝で7.129をマークし優勝。そして、男子でも世界記録保持者(5.48)のReza ALIPOURSHENAZANDIFARがスリップし敗退する。優勝は、Ludovico FOSSAL。なんと、対戦相手が失敗しての勝ち抜きが2回。さらに決勝では相手がFall、優勝を棚ぼた式に勝ち取った。



5. Combind

3つの単種目が終了し、コンバインドに出場する男女各20名が確定。女子はボルダリング、リード優勝のJanja GARNBRETが1位通過。日本人では野口啓代(2位)、伊藤ふたば(4位)、野中生萌(5位)、森秋彩(12位)、位倉菜々子(15位)が出場を獲得。残念ながら小武芽生は(35位)通過できなかった。

男子は、ボルダリング優勝、リード4位の榑崎智垂が1位通過。藤井快(4位)、原田海(5位)、土肥圭太(9位)、榑崎明智(1位)と全員が通過。

今回のコンバインドは、昨年INNSBRUCKで開催した世界選手権のコンバインドとは違って、オリンピックフォーマットで行った。18日女子予選、19日男子予選、20日女子決勝、21日男子決勝となる。

【コンバインド予選】

まず、女子予選のスピードでは、伊藤ふたばが4位、野中生萌は肩の調子が悪そうだがなんとか8秒台で5位、野口啓代は10位、倉菜々子13位、森秋彩18位となる。

2種目目のボルダリングでは、Shauna COXSEYが4課題一撃完登の1位。Janja GARNBRET、野口、伊藤も4完登するがアテンプト数でそれぞれ2位、3位、4位となる。

3種目目はリード。森が完登でリード1位となる。この後の各選手の成績にもよるがこれで最終的に決勝進出への切符をつかむ。Janjaは、35+で落ち8位に終わる。Janjaがダントツで予選を通過すると思っていたが、ちょっとした波乱? となる。

	S	B	L	point
1 Shauna COXSEY	14	1	3	42
2 Akiyo NOGUCHI	10	4	2	80
3 Janja GARNBRET	7	2	8	112
4 Petra KLINGLER	8	3	12	288
5 Ai MORI	18	16	1	288
6 Futaba ITO	4	5	15	300
7 Aleksandra MIROSLAW	1	19	20	390
8 Miho NONAKA	5	6	14	420

一方男子は、1種目目のスピードでは、スピード職人たちが確実に5秒台を出しRishat KHAIBULLINKAZが5.8秒台で1位。日本人では榑崎智垂4位、藤井快5位、原田海が6位、榑崎明智が8位と続く。

2種目目はボルダリング。Alexander MEGOSが4完登で1位。榑崎兄弟、原田海、Adam ONDRA、Jakob SCHUBERTが3完登で続く。

3種目目はリード。ここでもAlexanderが完登はならなかったが一番高度を延ばし37+を獲得。Adamがボルトを踏んだことにより19位。決勝進出を逃す大波乱が起きる。

	S	B	L	point
1 Alexander MEGOS	17	1	1	17
2 Jakob SCHUBERT	15	2	2	60
3 Tomoa NARASAKI	4	4	8	128
4 Kokoro FUJII	5	7	6	210
5 Kai HARADA	6	3	14	252
6 Rishat KHAIBULLI	1	17	17	289
7 Meichi NARASAKI	8	5	9	360
8 Mickael MAWEM	3	8	18	432

日本人も上部で苦戦するが、トータルでは榑崎(智)、藤井、原田、榑崎(明)の4人が決勝進出を決める。

【コンバインド決勝】

●コンバインド女子決勝 Speed

スピード競技は、ちょっとしたミスが影響するが、決勝でも多くの選手がスリップし10秒を超える選手が続出した。そのような状況下、単種目スピード優勝のAleksandra MIROSLAWFがビックファイナルへ進出。そして、もう一人の選手はなんとShauna COXSEYだった。相手のミスによって勝ち上がってきた。もちろんビックファイナルの結果は、スピード系のAleksandraが勝って1位となる。



●コンバインド女子決勝 Bouldering



2種目目は、ボルダリング。1課題は、左にトラバースし、トップ下の三角錐のボリュームでワイドクラック気味に設定された核心を突破する課題。森秋彩、野口啓代、Shauna COXSEYが完登。

2課題目は、中央部が大きく被った壁に設置されたパワー系の課題。野口、Janja、野中が完登。3課題は、トラバースで非常に下部はバランスが必要な課題。かなりトリッキーなのかZONEにも届かない課題であった。結果2完の野口が1位で通過。野口の言葉“集大成”へ進んでいるのを感じた。

●コンバインド女子決勝 Lead



3種目目はリード、ここで、徐々に調子を上げている森が予選に続き見事な登りで完登。下部では両手を広げてやっと届くようなところもあったが、迷いなく登って行く姿はJanjaと同じだ。

* 2人の比較映像参照 <https://youtu.be/8YiZRIturSs> または写真QRコード

最終ホールドをダブルダイノで取った瞬間、会場の歓声は今ままで最高だった。もちろん、Janja GARNBRETも完登。野口も、着実に登っていくが体力的に限界だったのか、最終ホールド取れる体勢にあるように見えたが、タッチに終わった。



結果コンバインドは、ボルダリング、リードで巻き返しを図った2人、Janja GARNBRETが優勝、野口啓代が2位となった。そして、まだ完全な復活とは言えないが、予選トップのShauna COXSEYが3位となった。そして野口は、オリンピック日本代表の内定を獲得した。

●コンバインド男子決勝 Speed

男子スピードでは、単種目スピードで7位のRishat KHAIBULLINが1位。スピード系の選手がコンバインド決



勝に残るようになってきた。彼らもトレーニング方法を変えてきていると感じる。日本人は、榎崎智亜が準決勝でMickael MAWEMに勝ちファイナルに進むが、フォールし2位となる。榎崎としては、幸先の良いスタートとなる。

●コンバインド男子決勝 Bouldering



第2課題

第3課題

第1課題

ボルダリング、1課題目を榎崎智亜が1撃完登。予選でAdam ONDRAが落ち、決勝ではJakob SCHUBERTの調子が上がらない中、榎崎が2課題目、3課題目も落とし全課題完登する。

第2課題は、最終ホールドをダブルダイノで取りに行く。かなり厳しいホールドからのダイノでさらに左手と右手のホールドの位置が狭く体を保持するのが難しいルート。これも榎崎が決める。榎崎は第3課題も完登し一人3完登でボルダリングを1位通過する。

●コンバインド男子決勝 Lead

リードは、Jakobが最初にスタート。淀みなく登る姿は、先ほどのボルダーでゼロ完だった選手と同じとは思えないほどの動き。そして完登。その後の各選手は、かなり手前(十数手)でホールし、予選1位のAlexander MEGOSは、ボルダーで手を痛め途中危険、

リードも不出場。リードはJakobの独壇場となった。

榎崎は、最終ホールドからかなり手前の30手で落ちるが2位となる。結果コンバインド総合でポイント4という絶対的な強さで優勝を勝ち取った。そして、オリンピックの出場内定を獲得。



MEN Commbind

Rank	NAME	Nation	F.Point	Final lead	Point	Final boulder	Point	Final speed	Point
1	Tomoa NARASAKI	JPN	4	30	2	3T3z 43	1	fall	2
2	Jakob SCHUBERT	AUT	35	Top	1	0T3z 06	5	7.208	7
3	Rishat KHAIBULLIN	KAZ	40	22	5	0T1z 02	8	5.915	1
4	Kai HARADA	JPN	54	30	3	0T2z 06	6	6.348	3
5	Meichi NARASAKI	JPN	60	21	6	1T3z 14	2	6.689	5
6	Kokoro FUJII	JPN	72	29	4	1T3z 26	3	9.438	6
7	Mickael MAWEM	FRA	112	20	7	1T2z 34	4	6.716	4
8	Alexander MEGOS	GER	448		8	0T1z 01	7	7.57	8

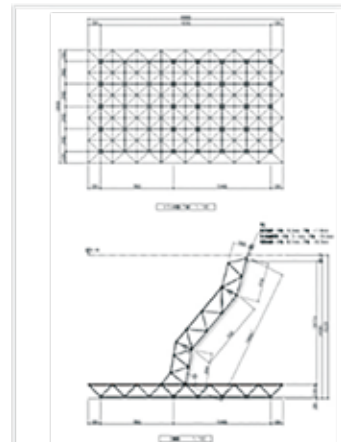
6. 運営

競技壁；

会場の準備(設営)期間が短いため、トラスによる応力を使った設置方式をとる。床荷重、地震係数を1.0で算出安全確保を実施。

⇒スピード、リード合わせてトラス2日、壁2日半で組み上げる。

⇒床荷重 リード壁の場合Z方向 平均430kg/m²(総重量32トン)、地震時最大2トン/m²、(地震係数1.0)



床補強(支持脚)→



競技壁イメージ



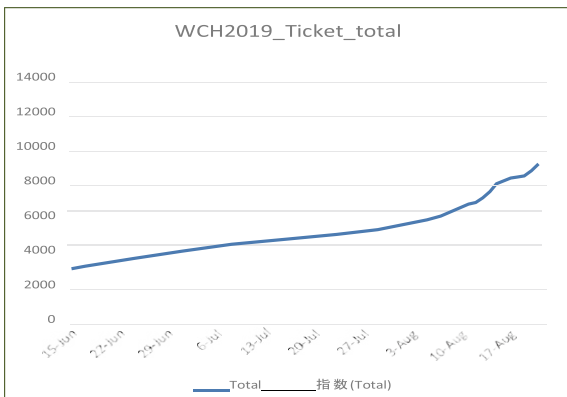
レイアウト；



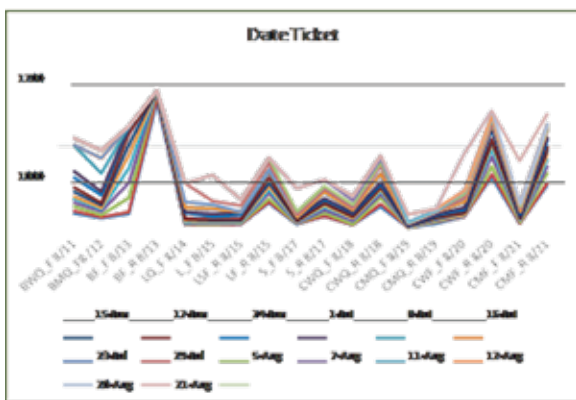
- メインアリーナ 60m×45m (FOP45%、観戦55%)
- 観戦席2階設定(東京都条例による)使用非常口7カ所で算出
非常口1カ所通過人数 1574 ÷ 7 = 225人
通路幅 225 × 0.6 = 135cm (実際150cmで設置)
観戦数 Total ①+② 1574 観戦数
Athlete200、Official80、Staff50 Total ① 330 Audience
A140、B104、C104、D104、E104、F104、G140、H148、
I72、J76、K148 Total ② 1244

チケットティング；

- 販売統計(一般 日計) 8735枚



- 販売統計(一般 競技別)
ボルダリング完売、コンバインド決勝85%



観戦ヒアリング；

- 来場エリア(開場前ヒアリング 52人)
関東75%中部10%関西10%東北3%海外2%
- リピーター(会場、表彰式前 34人)
1回21人、2回6人、3回2人、4回5人、
5回~0人

マーケティング；

観戦；

	選手男子	選手女子	Official	選手合計	観客	来賓	視察	メディア	観戦合計	観戦合計
8月11日	40	89	129	258	649	20	6	89	764	1,022
8月12日	104	40	129	273	578	20	10	65	673	946
8月13日	20	20	169	209	1,717	50	10	108	1,885	2,094
8月14日	99	92	129	320	333	10	5	56	404	724
8月15日	26	25	209	260	1,095	15	10	74	1,194	1,454
8月16日	休み									
8月17日	99	83	129	311	674	25	10	75	784	1,095
8月18日	20	19	70	109	885	25	10	84	1,004	1,113
8月19日	20	20	70	110	249	10	10	80	349	459
8月20日	8	8	150	166	1,456	85	15	118	1,674	1,840
8月21日	8	8	150	166	1,412	100	15	97	1,624	1,790
合計	444	404	1,334	2,182	9,048	360	101	846	10,355	12,537

販売；

	チケット当日	パンフレット	ポスター	Tシャツ	トートバック	ステッカー
8月11日	44	157	7	61	68	82
8月12日	58	98	7	49	51	124
8月13日	322	24	213	188	137	
8月14日	88	47	2	22	19	28
8月15日	92	91	11	53	34	101
8月16日	休み					
8月17日	90	56	12	2		79
8月18日	55	103	4	44		85
8月19日	31	14	8	11		18
8月20日	93	30	13	27		50
8月21日	92	23	28	21		68
合計	643	941	116	503	360	772

中継；コンバインド B S 1 生中継 視聴率0.2~0.4

PV https://youtu.be/rXs_-bG_Tyw

組織；オリンピックに近い組織での展開実施



- E.M. President
- Event management VP
- Sport manager
- Deputy Sport Manager
- Service manager Deputy
- Service manager Media
- Manager

スタッフ数(通常の大会より1~2割少ない)

11日91人、12日85人、13日99人、14日81人
15日80人、17日69人、18日83人、19日80人
20日88人、21日84人

(記 大会実行委員長 村岡正己)

スリランカ最大の聖地アダムス・ピークに登頂し、4つの世界遺産を巡る旅

(年末年始特別企画) 聖山アダムス・ピーク登頂とスリランカの4つの世界遺産 8日間

発着地 | 出発日 | 旅行代金
東京・大阪・名古屋・福岡 | 12/30(月) | 360,000円

※燃油サーチャージ(2019年9月20日現在:目安約17,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号 / 日本旅行業協会正会員 / ボンド保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

本社 〒105-0004 東京都港区新橋3-2-5(第5東洋海事ビル4階) ☎03-3503-1911
 大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
 e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

エベレスト登山規制の本気度は？

池田常道

6月号本欄でお知らせしたように、春のエヴェレスト（ネパール側）では、多くの登山者が限られた好天を狙って頂上を目指したことから山稜上部で渋滞が発生、その結果9人が亡くなった。そのうち1人は、下山途中で用を足そうと固定ロープを離れて滑落したものであったが、あとの8人はいずれも下山途中かサウス・コル帰着後に高山病（脳浮腫・肺水腫）で死亡した。渋滞で待機を余儀なくされているうちに酸素不足をきたしたものと推定されている。

エヴェレストの高所は、ただそこに留まるだけで人体に危険を及ぼす「死の地帯」で、無事に下りてくるだけで倍額の余力を試される場所だが、そのことを自覚していた公募隊リーダーとそのクライアントは実際どれほどいたのだろうか。みんなが行くから自分も、という群集心理では克服できないむずかしさを忘れてはなるまい。

5月22日の登頂者のひとり、退役グルカ兵のニルマル・プルジャがインスタグラムで公表した写真（6月号参照）には、狭い山稜上に蝟集したまま身動きならない登山者の長い列が写っている。このショットは多数の外国メディアに転載されてエヴェレスト登山の現状を明らかにし、「許可の乱発ではないか」という批判が巻き起こった。

ネ政府はこの春、外国人登山者に対して381通のエヴェレスト登山許可を出していた。2017年の366、18年の346と比べて格別多いというほどではないとも言えるが、山頂付近での渋滞は、大小の差はあれ、毎年起こってきた現象だ。今季はとくに、好天の機会が少なく、特定の日に集中したために影響が大きかったと見るべきだろう。

BCに詰めていたリエゾン・オフィサーは2日前に、「297人が22日の登頂を狙って待機中」とフェイスブックに記したが、これを警告だと受け取った隊はなかった。従来のように、有力公募隊が登山を仕切っていれば、なんらかの自主的対応ができたはずだと思うが、いまの公募隊は群雄割拠・玉石混交の状態、全体の安全に気を配って調整しようとする者などいなかった。

観光省のモハン・クリシュナ・サプトカ事務官は当

初、「遭難の原因は高山病、登山者自身の体力不足、悪天候による」と述べて責任を認めなかったが、ネ政府は批判の高まりに促されて、8月14日に新たな施策を発表した。以下はその骨子で、（ ）内は疑問点である。

①エヴェレスト登山をガイドするエージェントは、最低3年間にわたって高峰登山を主宰した経歴を必要とする（エージェントの新規参入を制限？）。②登山者は、少なくともネパールの6500m以上の山に登頂した経歴を必要とする（虚偽の登頂にも交付された前科がある証明書は適正か？）。③エージェントは、クライアント1人に付き、登山料込みで最低3万5000ドルを徴収する（今季の平均は推定4万ドルだったから収入減？）。

このほか、健康診断書を提出の上、訓練を受けたシェルパを雇うなど現行規則の履行が強調される一方、固定ロープの設置を早め、天気予報の精度を高めることなど、今季問題となった点にも改善の必要が指摘されている。また、エヴェレストおよび他の8000m峰に挑む登山者は、基礎的な訓練に加えて高所登山のトレーニングを受けていなければならないという項目もあるが、規則としてどんな基準を設けるのか具体的には示されていない。

ヨゲシュ・バッターライ観光大臣は「エヴェレストは熱意だけでは登れるものではない」と述べ、「登山許可を出すに当たっては、本人の健康状態や登山技術を吟味する」とも、記者会見で語っている。

たとえ今回の遭難がなくても、エヴェレストはすでにオーバーユースの状態に陥っていた。ルート上の混雑、遺棄された遺体（その数約200？）、大量のゴミ……

中国当局は1月に、エヴェレスト登山許可数を33%削減して300を上限とすることに決め、2月には、（中国人観光客に人気がある）車に入れる旧BCへの立ち入りを、登山許可を得た者に限るとした。これらの規制はゴミ処理と遺体搬出を目的にしたものだ。ネパール側の登山料1万1000ドルに対してチベット側は9500ドルと安い。危険に満ちたアイスフォールもないため、近年は低価格でお粗末な公募隊がチベット側に流れる傾向も見られる。さらに中国は、ヘリによる救助活動を許容し、ラサに大規模な登山訓練センターの建設を計画している。

エヴェレスト登山がもたらす外貨収入と雇用はネパール経済にとって欠かせないファクターだが、目先の外貨より将来も憧れの頂であり続けるエヴェレスト登山の持続性をこそ重視しなければならないのではないだろうか。



新連載 ～創立60周年に向けて～ (17)

『日山協と私』

香川県山岳・スポーツライミング連盟 木村 康男

2010年、日山協創立50周年記念行事「クーンブ山群三大峠トレッキング22日間」に参加した。前の年に、地元高松在住カトマンズクラブの金澤夫妻の誘いで初めてネパール行くことができたが、金澤健さんがネパールから帰ってほぼ2ヶ月後に白馬で急死したこともあって再度、あのネパールに行きたいと思って参加しました。

出発1ヶ月前の9月中旬、東京中野で打ち合わせがあり尾形専務、風の旅行者の方からトレッキングの説明を受けた。参加者は、男性5名、女性5名の計10名、内、夫婦二組。私以外は、海外のトレッキングは経験者のようだ。

1日目、10月18日午前、大阪、名古屋、東京から夫々出発し香港で全員集合し、深夜カトマンズ着後、ホテルに直行。

2日目、早朝からパッキング、噂のルクラ空港に全員揃って無事着陸。

その日はパクディンまで4時間、アルコールはここまでで、帰って来るまで我々は禁酒だが、今回ガイドをしていただく大ベテランのIさんの大きなポリタンにはウイスキー色の液体が見えた。参加者には大きめの個人用のデント、シュラフが用意され、泊地に到着して寛いでいる間に設営されるので大名気分です。

3日目はナムチェバザールまでで、高度順化のためもう一泊する。

5日目はナムチェからタンボチェ、この日が誕生日の人がいてポーターの方がケーキを作ってくれた。

6日目はタンボチェからパンボチェ、7日目はパンボチェからディンボチェ、ここで高度順化のため連泊。このころからお腹が不調になる。



エベレストをバックに

翌日、私以外は一つ目の峠のコンマラ経由でロブチェ(4910m)に向かう。私だけ下痢のため9名を見送った。大腸内視鏡検査が可能なほどお腹は空っぽになった。10日目、お腹も落ち着きポーター二人と私は、ロブチェに向かう。岡村孝子の「乾い～た空に続く坂道～～」を16～7歳の若いポーターに教えながら？歩く。ロブチェではカラパタール(5545m)を往復してきた皆さんと合流した。体調に大変気を使って頂き嬉しかった。朝方は-5℃程冷えるが暖かく寝る。

11日目、アマダブラを見ながら絵葉書の様な景色の中をゾンラ・カルカ(4830m)に向かう。12日目、ゾンラ・カルカから二つ目の峠のチョラ・ラ(5330m)を超えてタグナ・カルカ(4700m)まで、水と少しのチョコとアメだけで歩けるようになってきた。

13日目、氷河湖の点在するゴーキョ(4790m)まで。次の日、ゴーキョ・ピーク(5360m)に登り、その晩からの雪で夜明けには20cmほど一面の雪景色。雪の状況によっては引き返すかも？ そんなことが耳に入る。

15日目、晴天、三つ目の峠のレンジョパス(5340m)を超えて後はマルルン(4150m)まで、一気に下る。マルルン、ターメで夫々泊まる。ターメでは1992カトマンズクラブ隊でチョー・オユーに登られたシェルパのアンブルバさんのお宅を訪ねた。ナムチェバザールはミルクティーを飲んで通過し、モンジョまで下る。

18日目、モンジョから最後のトレッキングでルクラ



レンジョパス越え



金澤健・明子夫妻

まで歩き、ルクラの門をくぐり皆んなで喜び合った。ルクラでは宿に泊まり、久しぶりにビールを飲み、遅くまで「レッスンピリリ」に合わせ、阿波踊り+どじょうすくい輪になって踊った。

19日目、お世話になったポーターの人達と別れ、あのルクラ滑走路を駆け下り無事飛びたつた。カトマンズでは、まずホテルで垢を落とし、シェルパブランドの店でショッピング、夜は日本食レストランで7kg減った体重を取り戻したり、中国国境の温泉に行ったりした。

21日目、昼間は前日からの続きで観光etc.、日が変わる頃にカトマンズを後にし、朝方、香港着。乗り継いで

関空には、11月8日 午後到着。関空では何故か別室に連れて行かれ、手荷物検査を受けたが、当然白。ヒゲの風貌がよくなかったかも。テレビでよく見る取り調べの光景だった。後日、帰国後の体重を取り戻しすぎ、初めて痛風になった。また、岳蓮主催の子供登山教室でびっこを引いていると子供達からエベレストで凍傷になったみたいと噂していたが、訂正はしなかった。

あの時のトレッキングでは、企画していただいた日山協と大勢の方々のお世話になり、ありがとうございました。



2019年度山岳レスキュー講習会(無雪期・西部地区)報告

9月6日(金)から8日(日)にかけて富山県立山町の国立登山研修所にてレスキュー講習会が開催された。

クラスは

1 縦走・ハイキングレスキュー

運動生理学、簡易ロープワーク、ビバーク、ファーストエイド等遭難の予防。

2 ロッククライミング クラスA

レスキューに必要な個々の技術、ロープワーク、フリクションヒッチ、ラッピング、ローアダウン等

3 ロッククライミング クラスB

個々の技術を習得している方が、レスキューに関する組み立てと一連の動作について学習。(ビレー体制からの自己脱出→要救助者へのアクセス→フリーロープのフィックス。要救助者のところへ懸垂下降→振り分け懸垂救助のセット→振り分け懸垂で安定地点まで下降)

4 ロッククライミング クラスC

複数ピッチルートでの事故を想定した居合わせたグループ(バスタンダー)によるコンパニオンレスキューシミュレーション。

私は9月6日朝7時頃国立登山研修所に到着。心地よい風が吹き、さすがに立山。これなら快適な講習会が開催されると思ったのも束の間、太陽が昇り始めると日差しが強くなり猛烈な暑さに「沖縄より暑いんちゃうか」と冗談とも悲鳴ともとれる言葉が飛び交う。

【1日目】

12時30分 受付開始 参加者の皆さん暑い中ご苦労様です。

13時00分 開講式

13時30分 町田委員長による全体講習(平成30年度山岳遭難事故・登山のリスク管理)

14時10分 各クラスに分かれて講習開始

縦走ハイキングクラス(JH)は室内にてセルフレスキュー概論、屋外にてツェルトの活用。

クライミングクラスA(CA)は体育館にてロープワーク、ビレーからの自己脱出。

クライミングクラスB(CB)は人工壁にて3日間の講習内容をデモンにて紹介。ロープワークの確認。

クライミングクラスC(CC)は人工壁にてリーダーレスキュー(ビレーからの自己脱出、要救助者へのアクセス)。

17時には各クラスとも講習修了。

18時より夕食。

19時より各クラスとも体育館にて講習。

JHはロープワーク。クライミングA、B、Cは合同でデバイスの誤った使用例、懸垂下降時の事故事例の検証を行った。



開講式オリエンテーション

【2日目】

7時朝食、8時より講習開始 今日暑い!!

JHにこの日よりJMSCA医科学委員会の中島委員長が遭対委員会の講習内容の視察と今後、特にファーストエイドの部分での協力という事を目的に合流された。午前中は補助ロープの活用、午後からはファーストエイドの講習を行い早速中島委員長よりアドバイスも頂いた。最後に負傷者の搬送。

CAは午前中体育館にてパートナーに見立てた錘を落とし実際にビレーヤーに掛かる衝撃の体験と止めた時点からの自己脱出を行い、午後からは人工壁にて懸垂下降の技術確認と介助懸垂、フリクションヒッチを使っての登り返し等を行う。

CBは午前中人工壁にてフリクションヒッチを使っての登り返しと介助懸垂、午後からは体育館にてクラスA同様錘を落として衝撃体験、自己脱出、ハングでのフリクションヒッチを使っての登り返し等を行った。

CCは振り分け懸垂による救助、セカンドレスキュー、支点ビレー（対物ビレー）からの1/3システム、ディスタンスコントロール等を行い各クラスとも17時～17時30分には講習修了。

19時より情報交換会。各地からの地酒も持ち寄られ地域、クラスを越えた参加者同士の交流が大いに盛り上がる。

【3日目】

7時朝食、8時より最終日の講習開始。

JHは室内で事故を予防する運動生理学、ファーストエイド、搬送の復習、事故発生のシミュレーションを2班に分かれて実施。

CAはセカンドが落石を受ける等何らかの理由で登攀できなくなった場合を想定したディスタンスレスキュー。

CBは前日までの内容を一連の流れとして参加者全員がシミュレーションを行った。

CCはコンパニオンレスキューを一連の流れとして



傷病者への応急手当



人工岩でのトレーニング

参加者全員がシミュレーションを行った。各クラスとも12時～12時30分には講習を修了し、まとめを行い閉講式へ。

13時より閉講式、各クラス主任講師より講評が有り修了証の授与が行われ3日間の講習が無事終了した。

この講習会での技術、一つ間違えば大きな事故にも繋がります。反復練習を重ねて完全に自分のものにして下さい。町田委員長も最後に言われました。「うろ覚えでは絶対に使わないでください」と。

皆さん3日間 暑い!!中お疲れさまでした。

また、どこかの山で会いましょう。その時の合言葉は「毎度」。

(記 遭難対策委員会 副委員長 石田英行)

澤田実さんを偲ぶ会

去る5月17日にカムチャッカ・カーメン峰で逝去された澤田実(国際委員会委員長)さんの偲ぶ会が9月10日、東京のアルカディア市ヶ谷で執り行われ、約100名が参会し、故人を偲ばれました。



第63回全国高等学校登山大会

令和元年度全国高等学校総合体育大会登山大会(第63回全国高等学校大会)は8月2日(金)～6日(火)の日程で、宮崎県高千穂町を会場に全国46都道府県から470名の選手・監督と100名を超える役員が参加して開催された。主管する宮崎県では当初、霧島山系での開催を予定して準備にあっていたが、火山活動の活発化により同山系での開催を断念し、急遽県北の祖母山を擁する高千穂町に会場を依頼したもので、例年のない短期間で受け入れ、開催準備にあられた宮崎県や高千穂町をはじめとする地元の皆様、主管の宮崎岳連や宮崎県高体連登山専門部のご尽力には頭が下がる思いである。

開会式前日の8月1日に大会参加者は全て高千穂町に集結し、諸会議など準備態勢を整えた。夕刻には翌日からの登山行動に備えて地元の商店に食料の買い出しに向かうパーティーや、登山準備をすべてし終えて伝統ある高千穂神社の夜神楽を拝観するパーティーも見られ、改めて登山をしている高校生たちの意識の高さを垣間見ることができた。

8月2日は式前のアトラクションとして高千穂高校の生徒による神楽舞が披露され、開会式とあわせて、これからの登山行動への思いがいやがおうにも高まる。隊編成、知識審査とスムーズに進行した後、コース隊編成、幕営地へ移動、引継ぎ式、設営審査、炊事審査と一連の行動が予定通りスムーズに実施された。今回の幕営地は開閉会式会場、大会本部と隣接したグラウンドであり、コンパクトな運営が可能であった。加えて設営隊の役員、補助員の細やかな配慮が行き届いており、選手・監督が安心して快適に大会日程を過ごすことができたことは感謝にたえない。

8月3日は四季見原から親父山を周遊するコースで、メインザックがズシリと重い登山行動となった。とはい



え標高差はさほど大きくなく、酷暑の時期でもあり規定時間も余裕をもって設定されたため、無理のない登山となった。しかし火山灰土に覆われた登山道を多人数が連続して通過することとなり、ぬかるみは避けることができず、ズルズルと難渋しながらの下山となった。幕営地到着時には地元の方々によるシロクマ(アイスキャンディー)の振舞いをいただき、一日の苦労も吹き飛ばす勢いであった。また、交代で地元の温泉に入浴することができ、汗を流してさっぱりとして就寝することができた。

8月4日は尾平越登山口から稜線に登り、古祖母山、障子岳、親父山を縦走して四季見橋に下山するルートで、運営の都合上、昔ながらの隊行動、班行動を行った。天候に恵まれ快適な登山ではあったものの、行動の遅滞は避けられず、特に女子は予定を大幅に遅れての下山となった。それでも地元の方々によるおにぎりなどの振舞いをいただき、一同は人心地をついた。女子の下山を待って引継ぎ式を行ったため、設営・炊事の開始時刻も遅くなり、運営側として消灯と翌朝の起床を遅らせる対応を行った。

8月5日は前日の行動遅延と、折から接近中の台風8号の影響への対応として、出発時刻を遅らせて、かつ



登山行動も途中で打ち切る荒天対策を実施した。今大会の華となる日本百名山の祖母山を諦める苦渋の選択ではあったが、安全には代えられず、前途ある高校生たちには登り損ねた祖母山をいつかまた訪れて欲しいと願っての判断である。そんな状況下でも地元の自治会の方々の、遠来の高校生たちをもてなしたいという強い思いがあり、農産物集荷場を利用しての名物“冷や汁”の振舞いと相成った。地域の方々の連日の温かいお気持ちは、生徒たちの心にきっと伝わったことであろう。武道館に戻り解団式を実施し、お世話になった役員の方々への感謝の思いを伝えることができた。

8月6日の閉会式は台風が直撃・縦断し警報が発表されている状況下で挙行した。幸いに安全な施設で選

手・監督と役員も集結していたため、地元高校生の補助員が不在という異例の対応であった。運営役員や設営隊員などの協力を得て無事に大会日程を最後まで行うことができたことはとても有り難いことである。閉会式終了後、台風通過後の若干の交通混乱の中で大半の参加者が帰途につけたことは幸いであった。

野外活動である登山は、気象条件その他の影響を直接にこうむる宿命にある。そんな中で天の時、地の利、人の輪が相まって無事に大会を終えることができたことはひとえに宮崎県、高千穂町をはじめとする地元の方々のご尽力の賜物である。改めて御礼を申し上げたい。(記 前田善彦)



令和元年度 第5回理事会報告

日時 令和元年9月12日(木)
14:20～17:50

場所 Japan Sport Olympic Square
3階10号会議室

出席者 八木原会長、亀山、平山、丸各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、合田各常務理事、相良、蛭田、町田、村岡、小日向、村上、水村、山口、前田、六角、唐木、安藤、古賀、山本、古林各理事
中島、古屋各監事
監事を除き上記23名中23名出席
理事会の前に恒石直和・ガバナンス委員長による役員のコンプライアンス研修が行われた。

1. 開 会

会長挨拶の後、会議成立状況が報告され、理事数23名中23名出席、監事数2名出席で会議は成立。(定款第33条、定足数=12名(1/2以上))

続いて議長を選出し、議事録署名人を指名して議事に入った。

2. 議 題

○議案第1号 議事録の承認について

(1)第4回理事会議事録の承認について

(2)臨時理事会議事録の承認について

(3)議事録の内容及び取り扱いの確認について

議事録の内容及び情報開示について提案があり、今後は議論した内容の要約と結論を簡潔に記述し、公表は速やかに行う事で、承認された。

○議案第2号 アジア選手権2020について
今後の対応について協議され、継続審議としてなるべく早く岩手県側への提案をまとめることで承認された。

○議案第3号 規程改定について

(1)加盟団体規程について

提案通り承認された。

(2)日本代表チームに関する規程について

提案通り承認された。

(3)登録選手規程について

一部再提案したいとの要請があり、継続審議とする。

○議案第4号 選手選考基準について

①アジア選手権大会ボゴール大会 選手選考基準について

②第5期JMSCAオリンピック強化選手選考基準について

③LWCクラニ大会派遣選手について

④アジアユース選手権大会(中国、インド)派遣選考基準について

以上、4項目が承認された。

○議案第5号 指導員、審判員の承認について

以下の認定承認が諮られ、承認された。

①スポーツクライミングコーチ1認定 三重県山岳・スポーツクライミング連盟 伊藤孝雄、小林春彦、中野順司、濱田正人、堀田景子、戸田大輔、瀧浪優真以上7名

②JMSCA公認夏山リーダー資格認定

千葉県山岳連盟 森田通子、原政樹、高野義教、青木正寿、靈園淳、以上5名

③C級審判員資格認定

三井善敬、岩崎賀央、濱田麻美、近藤美香、新井牧子、井上恵子、望月美、吉野謙二、伊東まい、以上9名

3. 報 告

○報告1号 8月度月次会計報告

資料に基づいて報告があった。

○報告2号 世界選手権の結果報告と補正予算について

資料に基づいて報告があった。補正予算については、収支の途中経緯が報告された。

○報告3号 上期業務・会計監査日について
10/1(金)JSC実態調査、10/30(木)中間監査、11/28(木)内閣府立入検査

○報告4号 後援依頼について

①神奈川県連岳登山

②山岳・スポーツクライミングセミナー

③陣馬山トレイルレース

④岡山県玉野市深山公園 ボルダリングエリア公開イベント

上記4件について、承認された。

○報告5号 I F S Cアスリート委員会について

資料に基づいて報告があった。

○報告6号 専門委員会 常任委員の再確認

総務部、SC部、登山部の常任委員の再確認について報告があった。

○報告7号 受動喫煙防止法について

スポーツ庁のアンケートについて報告があった。

4. 専門委員会議事録報告(抄録)

4-1. 遭難対策委員会-1

7月31日(木) 出席者 スカイクを含め15名
ア) 全国山岳遭難対策協議会について

7月5日(金)、文部科学省講堂

①「平成30年における山岳遭難の概況」

②「ココヘリによる救助実績」

③「山岳遭難救助のリスクマネジメント」

④「山岳遭難対策を法的に考えてみよう」

イ) 夏山リーダー講習会および指導者研修会について

①夏山リーダー講習会

8/15(木)～18(日)、国立那須甲子青少年自然の家

②夏山リーダー講習会の予定

岩手9月開催予定 神奈川11月開催予定

③指導者研修会の予定

11/17(日)開催予定

ウ) 遭難対策委員会研修について

8/24(土)、25(日)、長野県山岳総合センター

内容：無雪期レスキュー講習会の内容調整および確認。

エ) 無雪期レスキュー講習会について

9/6(金)～8(日) 国立登山研修所

オ) 山岳遭難データの閲覧開始について

4-2. 遭難対策委員会-2

8/25(日)、長野県山岳総合センター

出席者 15名

ア) 無雪期レスキュー講習会について

内容、教え方等の確認を行い、主任講師、講師、スタッフの認識を統一する。
講習会のクラス：縦走ハイキング、ロッククライミングセルフレスキュークラスA、B、Cの4コースとする。

4-3. SC委員長会議

8月1日(休)

ア) WCHチケット購入の依頼について(アスリート委員会)

イ) 健康管理におけるルールの設定について

医科学・強化・アスリートを中心に、どのような形で進めるか検討する。

ウ) ガバナンスコードについて

各委員会の中・長期プランの作成(人材育成含む)

エ) ジャパンツアーのスピード追加

オ) 各委員会の予算減額の可能性について

カ) 代表選考について

キ) アンチドーピング委員会・倫理委員会について

日程や研修をもっと受けやすい状況作りをする

ク) 指導委員会(山岳とスポーツクライミング)

4-4 第3回SC強化委員会

8月12日(月) 八王子京王プラザホテル 出席9名

ア) 今後のスケジュールについて

・アジア選手権(11/7~9、インドネシア・ボゴール)

・アジアユース選手権(12/12~15、インド・バンガロール)

イ) アスリートパスウェイの戦略的支援委託事業の現状について

ウ) 国体リハーサル大会の利用について

4-5. 指導委員会-1

8月5日(月) 出席7名、委任3名、

ア) 夏山リーダー講習会について

JMSCA指導委員会主催、8/15~18

イ) 夏山リーダー講習会用の制作物について(ポスター、チラシ)

ウ) 夏山リーダー講師謝礼について

講師料 1日6,000円

スタッフ 1日4,000円

4-6. 指導委員会-2

9月2日(月) 出席13名、委任1名、

ア) 夏山リーダー講習会の報告

8/15~18、国立那須甲子青少年自然の家周辺

イ) 登攀研修会について

主管：(一社)大阪府山岳連盟 10/26(土)~27日(日)

ウ) スポーツクライミング主任検定員養成講習会について

東京：12/14(土) 大阪：11/9(土)

エ) 指導委員会をACとSCに分割する件について

オ) トレーキング用ヘルメット専門部会について

カ) 高体連インターハイ報告

野村副委員長から報告があった。

4-7 共済委員会

8月26日(月) 出席者6名

ア) 令和元年度山岳共済会加入状況

8月15日現在51,616人(前年比1,659人減)

イ) 令和2年度「山岳共済会契」の内容について

ウ) 令和2年度「山岳保険のご案内」の内容について

遭難捜索保険の支払い条件の解釈に伴う新商品の認可申請について報告あり。

エ) 新規事業「音声入りアニメ動画」の進捗状況について

4-8 山岳スキー委員会

9月4日(金) ネット会議 出席6名

ア) 今後の山岳スキー競技について

第14回山岳スキー日本選手権大会(4/4日~5、2種目方向で調整。アジア選手権の打診)

イ) ポイント制度及び公認大会について

ウ) 国際レフリーの資格取得について

エ) 2026年冬季オリンピックについて

イタリア開催なので正式種目化は可能性高い。総会で確認。

オ) 2024年冬季ユースオリンピックに向けての選手養成。

カ) 選手強化について

合宿費と用具費の予算活用

5. 会務・役員派遣等

(8月2日~9月11日)

(1) 第32回オリンピック競技大会日本代表選手団応援プロジェクト発表イベント

8/2(金) 於：J S O S 14 F

尾形専務理事

(2) インターハイ登山大会

8/2(金)~6(火) 於：宮崎県祖母山系

八木原会長、野村指導副委員長

(3) 高校登山指導者夏山研修会

8/6(火)~9(金) 於：国立登山研修所、

室堂周辺 小野寺常務理事

(4) 第4回山の日記念全国大会

8/10(土)~11(日) 於：山梨県甲府市

丸副会長、尾形専務理事

(5) I F S C クライミング世界選手権

2019八王子 8/10(土)~21(日)

於：エスフォルタアリーナ八王子

八木原会長他

(6) 夏山リーダー講習会

8/15(木)~18(日)

於：国立那須甲子青少年自然の家とその

周辺 蛭田、町田理事

(7) I F S C・東京2020組織委員会テスト

イベント協議

8/23(金) 於：晴海トリトンスクエア

平山副会長、尾形専務理事

(8) みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立

山 8/25(日)~28(水) 於：国立立山青少

年の家 谷口委員長

(9) J S P O 評議員連合会総会

8/26(月) 於：J S O S 3階会議室

尾形専務理事

(10) ネパール航空、関西空港ダイレクト便就

航記念パーティ 9/2(月) 於：ロイヤル

パークホテル 丸副会長、尾形専務理

事

(11) スポーツ団体ガバナンスコード説明会

9/3(日) 於：J S O S ビル14 F 尾

形専務理事、小野寺常務理事

(12) 上月スポーツ選手支援事業認定式

9/4(火) 於：ザ・リッツ・カールトン東

京 尾形専務理事、小野寺常務理事

(13) 山岳レスキュー講習会(西部地区)

9/6(金)~8(日) 於：国立登山研修所

町田理事

(14) 日本山岳写真協会表彰式

9/7(土) 於：上野精養軒 八木原会長

(15) 第74回茨木国体組み合わせ抽選会 9/

8(日) 於：J S O S

尾形専務理、西原委員長

寄贈図書

雑誌	Club alpino italiano	「Montagne360」settembre2019
	(株) ネイチャアエンタープライズ	「岳人」No.868
	(株) 山と溪谷社	「山と溪谷」2019年10月 No.1014
	中華民国山岳協會	「中華山岳」《雙月刊》272
	(公社) 日本山岳会	「山岳」2019年 Vol.114
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第627号
	日本万歩クラブ	「アルク」2019年10・11月号
	健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.497
	日本防火・防災協会	「地域防災」No.27
	日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2264、2265、2266、2267号
会報	日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.72
	(公財) 京都府スポーツ協会	スポーツ時報 第31号
	(公財) 埼玉県スポーツ協会	スポーツ埼玉 vol285
	(公財) 日本スポーツ協会	「Sport Japan」Vol.45
	スポーツこころのプロジェクト	「スポーツこころのプロジェクト新聞」
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.234
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第344号
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.97 10月
	常北山水会山岳部	「山水」第45号
	(公社) 日本山岳会	「山」9月号 No.892
冊子	市立大町山岳博物館	平成30年度 年報



(16) 澤田実さんを偲ぶ会
9/10(火) 於：アルカディア市ヶ谷
八木原会長他



60周年募金協力者ご芳名
(2019年9月30日現在、敬称略)

10口：宮城県県山岳連盟
(総額：330口 1,650,000円)

表紙のこぼ

シッキムのゼム氷河源流のゼム・ギャップ(5,861m)とチブゲ・ラ(5,407m)に挟まれた山塊がシムヴー山塊である。この山塊には6,500~6,800m級のピークが6座聳えている。それらはI峰(南西峰、6,812m)、II峰(南中央峰、6,811m)、III峰(南東峰、6,671m)、IV峰(北西峰、6,587m)、V峰(中央峰、c. 6,555m)、VI峰(北東峰、6,540m)。

シムヴーに最初に挑んだのは、イギリスのA. M. ケラス。1907年9月にI峰と目されるピークに3度にわたって挑むも6,300m付近で断念。

1936年秋、シニオルチャー初登頂の余勢をかってP. バウアーの率いるドイツ隊が北稜からVI峰に初登頂した。

(記 尾形好雄)

編集後記

9月28日~30日にかけて第58回全日本登山大会岐阜大会に参加した。岐阜岳連、岐阜県、高山市、下呂市の歓迎のもと盛大に開催された。登山日はあいにくの天気で期待通りの展望は望めなかったが、各コース雨に打たれることもなく、又大きなトラブルもなく無事下山した。懐かしい顔ぶれが多かったが、新しい試みで飛騨神岡高校登山部の生徒と顧問の参加があり、次回以降も高校生の参加を期待したい。

(広報担当 水島彰治)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

NPO法人 北丹沢山岳センター
神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 道志村トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

登山月報 第607号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 令和元年10月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」



【特集】マウンテントレイル
～景色を楽しむ山旅～

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格880円(+税)

11月号 発売中

年間購読がおすすりめです。

購読割引

送料無料

限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊

~~10,560円~~ → **9,680円**

(+税) (11月号・10月15日発売)より全頁カラーとなり価格が変更となります。

1年間で880円
1冊分無料!



2色から選べる!

岳人年間購読キャンペーン
岳人Tシャツプレゼント

岳人の年間購読を【新規お申込み】または【ご継続】いただくと、モンベル製「岳人Tシャツ」をプレゼント。

キャンペーン期間(お申し込み日)

2019年10/15日~2020年10/14日
(2019年12月号から2020年11月号までの年間購読開始が対象となります)

※購読開始号に同封されているクーポンを全国のモンベルストア店頭でTシャツと交換させていただきます。ご来店いただけないお客さまには送料550円で発送も可能です。

あなたを守る。
あしたを作る。
三井住友海上

損害保険と聞いて、
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ること、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

みつ い すみ とも かい じょう
三井住友海上
時空保険
探査部
Space-time Insurance
Exploration Department

人類にとっての
損害保険の
必要性を調査。

時空を超える
ゲート。

社員証をかざせば
タイムワープ。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



山岳保険の加入は 登山者のマナーです

あなたの山岳保険は大丈夫ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難捜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院費用
- 傷害通院費用
- 傷害手術費用
- 個人賠償責任

日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
携帯サイト (www.jma-sangaku.or.jp)



WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.com)